

緊急情報の迅速な伝達で 安心安全を支援

自然災害大国の日本では、地域における緊急・災害情報の迅速な伝達は、住民の命綱と言っても過言ではない。岐阜県美濃加茂市は災害情報伝達手段の多重化を図るため、コミュニティFM局「FMらら」(FMラインウェーブ(株)、岐阜・可児市、谷口公一社長)と連携し、2017年12月



から緊急情報伝達システムの運用を開始した。美濃加茂市から緊急放送を受信すると、FMららに設置したシステムが発動し、番組に割り込み放送する。ここでは、FMらら、美濃加茂市、システムベンダーのシンクレイヤ(株)(愛知・名古屋市、山口正裕社長)を取材し、各担当者からシステム導入の背景や緊急情報伝達の仕組みなどを聞いた。

板津広行氏
岐阜県美濃加茂市 防災安全課防災係長



平田 稔氏
FMラインウェーブ(株)(FMらら) 取締役局長

緊急情報を受けての割り込み放送 山間部へはケーブルテレビを通じて情報伝達

—FMららの概要と主な番組についてご紹介ください。

平田:FMららは、“いざという時の情報発信基地”として、2012年7月24日、可児市、美濃加茂市、御嵩町とその周辺地域を放送エリアに開局しました。2010年に岐阜県中濃地区で発生した、「7.15豪雨災害」から教訓を得たのがきっかけです。運営する当社、FMラインウェーブ(株)は、可児市、美濃加茂市、御嵩町、(株)ケーブルテレビ可児などの出資を受けています。FMららは24時間放送。平日の朝昼夕各2時間、土曜日1時間の生放送が看板番組で、天気予報、交通情報を含む、さまざまな地域の話や音楽をお届けしています。この他、市町村の行政番組、子どもの寝かしつけをお手伝いする読み聞かせ番組、大学生が自ら制作・出演の番組、さも居酒屋からお送りしているかのような番組など、バラエティ豊かでオリジナル番組が多いのも特徴です。自主制作番組は半数以上を占め、開

局以来、地域の皆さんに親しまれています。現在では、ポッドキャストやアプリでもFMららが楽しめます。

—各自治体とはどのような関係を築いていますか。

平田:開局当時から、美濃加茂市、可児市、御嵩町と災害時における緊急放送に関する協定を締結し、災害時の緊急放送などに対応してきました。また美濃加茂市、可児市とは、緊急・防災情報が発令された場合、システムが発動し、FMららで割り込み放送を行う体制が整備されています(導入開始:美濃加茂市17年12月、可児市18年4月)。

—美濃加茂市が発令する緊急情報とは。新システムを導入された経緯をお聞かせください。

板津:気象庁が発表する大雨警報などの気象情報、「ぎふ 土砂災害警戒情報ポータ



「昼ドキ!ワンダーランド☆」のパーソナリティ小栗照代さん。機器の操作、CDの入れ替えもすべて一人で行う。スタジオはケーブルテレビ可児に設置

ル」の情報等を総合的に勘案し、避難準備・高齢者等避難開始情報、避難勧告を発令します。美濃加茂市の山間部は土砂災害警戒区域に指定されている地域も多く、防災行政無線が特に届きにくいエリア。適切な避難行動を促すには、迅速な緊急情報の提供が必要です。より確実に伝えるため、シンクレイヤに相談したところ、ケーブルテレビのインフラを活用してFMららの放送を届けることで、防災行政無線を補完する仕組みをご提案いただき、システム構築をお願いしました。

—システムの仕組み、緊急情報伝達の流れはどのようになっていますか。

和田:シンクレイヤは、ケーブルテレビに特化したシステムベンダーですが、東日本大震災

以降、無線インフラの強化を希望するお客さまが増えました。防災に関しては、あまねく皆さんにお届けするという観点から、有線無線の利点を組み合わせて開発したのが、美濃加茂市で導入いただいた「コミュニティFM告知放送システム」になります。

高橋:専用装置からコミュニティFM放送に割り込み放送を行い、リアルタイムに緊急放送を伝達するシステムになります。美濃加茂市の防災無線室に設置した機器で緊急情報の音声をデータ化してFMららに伝送すると、FMららの音声切替器が発動し、緊急情報を割り込み放送します。同時に端末起動音声信号が生成され、この信号を受信した防災ラジオ（告知放送端末）は電源がオフでも自動起動します。他のチャンネルを選択していた場合も、自動的にFMららに切り替わります。

「屋外スピーカーが聞こえにくい」という防災行政無線放送の課題を解消するには、宅内端末の導入が一番です。しかし、宅内用の防災行政無線専用端末は高価で、全世帯への配布は大変です。SNSやメールによる情報発信は、スマートフォンの操作が苦手な高齢の方には不向き。緊急情報が真夜中に発令されるケースなどを想定すると、低コストで導入でき、かつプッシュ型端末が最適と判断し、当社独自の自動起動技術を採用した防災ラジオを提案しました。

和田:FMららは、ケーブルテレビに電波を再送信しているのでFM電波の受信環境が悪いエリアでもケーブル加入世帯にはFMららの信号が届きます（※）。美濃加茂市の山間

部では、ケーブルテレビ局のCCNet経由でFMららの電波を受信しており、防災ラジオの自動起動も検証済みです。

※各ケーブルテレビ局のサービスエリア:CCNet(美濃加茂市)、ケーブルテレビ可児(可児市、御嵩町)

—**防災ラジオの自動起動技術とは、どのようなものですか。**

高橋:防災ラジオは、トーン信号を採用した製品が主流です。トーン信号とは、プッシュ式電

話で使用されるピポパッと鳴る信号のこと。ラジオを起動させるため、緊急情報の前にトーン信号を流しますが、この方式は、最初に受信し損ねるとラジオが起動しません。当社開発の自動起動音声信号は緊急放送中もずっと流し続けられます。「土砂災害警戒が発令されました」という音声の裏で、終始自動起動信号を発信しているため、起動率を各段に向上できます。

美濃加茂市が全世帯対象に無償貸与 自動起動型「防災ラジオ」

—**美濃加茂市における防災ラジオの導入状況は。**

板津:防災ラジオは、市民に無償で貸与しています。導入当初は、伊深地区、三和地区、75歳以上の高齢者世帯限定でしたが、有効性が実証されたため、美濃加茂市に住民登録がある全世帯に対象を拡大しました。2020年7月末現在、貸与台数は1,705台。さらに多くの世帯に貸与し、情報取得率を向上させたいと考えています。今年4月からは、火災放送も防災ラジオで流せるようになりました。火災放送通知メールのテキストをFMららで音声合成し、AIアナウンサーが読み上げてくれます。情報伝達するばかりでなく、適切な避難行動を促進する活動にも取り組んでいます。

—**その他、独自に進める防災関連の取り組みはありますか。**

板津:避難勧告等の判断・伝達マニュアルを策定し、避難勧告等の発令基準を定めています。今年7月の大雨でも、避難準備・高齢者等避難開始情報、避難勧告を発令しました。複数の伝達手段を活用し、確実に周知できたと考えています。美濃加茂市としては、防災ラジオもSNSもメールも全て同等に重要。伝達手段は多いほど効果的です。今年度は、「防災行政無線のデジタル化」方針のもと、携帯通信網を活用した伝達手段を新たに構築し、防災アプリも導入予定です。慌てて聞き逃すこともありますし、メールやアプリでの伝達は、

後から落ち着いて確認できる利点があります。FMららも、緊急時には特別編成を組んで、繰り返し情報を発信してくださっています。連携を取りながら放送できるので心強いです。

—**FMららとして、今後目指していくことは。**

平田:当社は少人数体制ですし、この地域には外国人の方も多く、AIアナウンサーなども駆使し、多言語で緊急放送を行なっていますが、今後も緊急放送に強い放送局を目指します。緊急放送の伝達スピードは、現在も評価いただいています。より親しまれ、多くの人に聞いていただけるよう努めます。アプリの登録数は2万5,000件を突破しました。ラジオだけでなく、テレビやスマホでもFMららがお聞きいただけるので、今後も地域の情報発信基地として、アプリ、SNS、HP、刊行物などを併用し、安心安全につながる防災情報を広めていきたいです。



高橋博志氏
シンクレイヤ(株)九州支店
福岡営業部 次長



和田宏彦氏
シンクレイヤ(株) 営業企画部
専任次長 兼 パブリシティ課長